



Bousquet, Y., Bouchard, P., Davies, A. E., Sikes, D. S., 2013. Checklist of Beetles (Coleoptera) of Canada and Alaska. Second Edition. Pensoft Series Faunistica, No 109. Pensoft Publishers, Sofia-Moscow. 402 pp.

カナダ・アラスカ産コウチュウ目の既知分類群すべてを網羅したチェックリストである。本書の22年前に出版された第1版(Bousquet, 1991)では7,436種・亜種が掲載されたが、今回、その後に行われた高次分類体系の変更や、地域ファウナに関する新知見を盛り込んで大幅な増補・改訂が行われ、801件増の8,237種・亜種が掲載された。旧北区のファウナとの関連性が高い当該地域の甲虫相を概観するのに大変役立つ一冊である。

チェックリストの基本構成は第1版と同様だが、科階級群タクサの分類体系はBouchard *et al.* (2011)に従っており、上科と科、亜科は系統関係に基づいて配列され、上族と族、亜族はアルファベット順に配列されている。そして、属階級群タクサと種階級群タクサ、無効シノニムがアルファベット順に配列されている。特段の事情がない限りシノニムは掲載されていない。チェックリスト自体は非常にシンプルな構成だが、属階級群以上のタクサについて種同定に有用な検索表がある場合は、その学名の下に文献情報が記されているので、大いに参考になる。また、全北区に分布する種・亜種名にはアステリクス(*)を、移入種にはダガー(†)を付すことによって、一目で北米産種と区別できるように工夫されている。各種・亜種の分布情報は、アメリカ合衆国アラスカ州とカナダ10州、3準州の計14地域に区分した上で、それらの略称(2文字のアルファベット)を西から東、北から南の順に記すことで表されていて大変見やすく、地域レベルでの分布記録の欠落はハイフン(—)で表されていて一目瞭然である。ただし、分布情報は全て行政区分の略称なので、私のようにカナダの地理に疎い利用者は、まず地図で各区分の位置関係を確認した上で、それらの略称を頭に入れておく必要があるだろう。一度慣れさえすれば、各種・亜種の分布域が簡単にイメージできるようになるので、これも第1版から引き継いだ著者らの工夫の賜物なのだと感じている。

本書では、チェックリストの前に種数(実際には種階級群タクサ数)の一覧表があり、各科についてアラスカ州とカナダの州・準州毎の種数やカナダ・アラスカにおける総種数、全北区に分布する種数、侵入種数(定着が確認された種のみ)を把握できるようになっている。また、本表には、各列の最後に全科の総種数と全体に占めるその割合、第1版での総種数と第2版との差が明示してあり、非常に分かりやすい。分類群別に見ると、最も多いのはやはりハネカクシ科で1,682種、次いでオサムシ科989種、ゾウムシ科(キクイ・ナガキクムシ科を含む)823種の順となっている。ただし、ゾウムシ科については、当該地域の植生と気候帯の単調さを考慮したとしても、広大な地域にこの数は余りに少ないと言わざるを得ず、まだまだ研究の余地が多く残されていると思われる。それから、地域別に見ると、研究者密度が最も高いオンタリオ州が4,513種(全体の総種数の54.8%)で1位となっているが、これは調査精度の影響が大きいのかかもしれない。一方、北極圏のヌナヴット準州は123種(1.5%)で断トツの最下位となっているが、例え面積が広大でもここでは本当に虫が少ないに違いない。他に目立つのは侵入種が628種で実に全体の7.6%を占めており、1991年時点の469種から159種も増えたことである。毎年7種以上が侵入・定着している計算となり、この世界的問題の深刻さを再認識させられた。例えばゾウムシ科では、823種中19種が全北区に分布する一方、106種が侵入種であり、チビヒョウタンゾウムシやクリイロクチブトゾウムシなど、中には北東アジア原産のものが散見される。

本書を眺めていると、どうしても同じフォーマットで北米全体の甲虫リストが欲しくなるが、無い物ねだりなのでどうしようもない。一応1996年に出版された“Nomina Insecta Nearctica. A Check List of the Insects of North America. Volume 1: Coleoptera, Strepsiptera”(http://www.nearctica.com/nomina/main.htm)があるものの、本書にはかなり問題点が多いし、そもそも分布情報が全く含まれていないので、残念ながら、現時点では地域ファウナが各分類群のリストを個別にチェックしていく他ない。

(吉武 啓 独立行政法人農業環境技術研究所)